

札幌市と静岡市の事例

●札幌市の取り組み（2～6ページ）について特徴と考える点

(1)講座の内容や持ち方について

- さっぽろ市民カレッジの講座を「市民活動系」、「産業・ビジネス系」、「文化・教養系」の3つの分野に分け、分野ごとに講座の目的を明確にしている。
- 生涯学習センターが企画する講座だけでなく、ご近所先生（＝市民講師）やボランティアが企画する講座も設けている。

(2)生涯学習センターと地域や他機関との連携について

- 講座を、生涯学習センターだけでなく、区民センターや図書館などの他施設でも開催することにより、主体同士の連携と開催会場の拡充につなげている。

(3)学習成果を社会で活用するための仕組みについて

- 講座受講生が受講修了後に学んだ成果を活かせるよう、ボランティアグループとして活動する機会を設けている。

●静岡市の取り組み（7～9ページ）について特徴と考える点

(1)講座の内容や持ち方について

- 静岡シチズンカレッジこ・こ・に講座を「キャリアチャレンジ学部」、「地域チャレンジ学部」の2つの分野に分け、分野ごとに講座の目的を明確にしている。
- 庁内各課が実施する「人づくり」に関する講座をこ・こ・に講座にまとめている。

(2)学習成果を社会で活用するための仕組みについて

- 案内パンフレットの各講座欄に、「修了後」として、受講修了後に期待する実践や活動を明記している。
- 受講修了後のフォローとして、受講生のネットワークを広げるための交流会開催や、次の行動につなげるための情報提供、相談事業を実施している。
- まちづくりに対して特に意欲のある方の受講修了後の実践や活動を応援する「まちづくりマスター認定制度」を設けている。

札幌市

※公益財団法人札幌市生涯学習振興財団の令和4年度事業計画書、令和4年度事業報告書、札幌市ホームページより作成

※公益財団法人札幌市生涯学習振興財団は、札幌市生涯学習センター「ちえりあ」の指定管理者

※講座内容はパンフレット「ちえりあって」(資料3)参照

1. 学習機会提供・活動支援事業

多様なニーズに対応した学習機会や情報を提供して市民が学習に取り組むきっかけづくりを行うとともに、継続的な活動の場や学習成果発表機会の提供などにより学習活動を支援し、生涯学習の普及啓発を図る。

(1) さっぽろ市民カレッジ

- 年間を3期(4～8月、9～12月、1～3月)に分け、幅広い年齢層を対象に、「ア 市民活動系」、「イ 産業・ビジネス系」、「ウ 文化・教養系」で講座を実施する。
- 生涯学習センター企画講座に加え、ちえりあ学習ボランティアやご近所先生(市民講師)の講座、大学・企業と連携した講座、高校生と社会人が一緒に学ぶ学社融合講座を実施するなど、多様な学習機会を提供する。

ア 市民活動系

(事業計画書より)

- まちづくり活動などに参加するきっかけを提供するため、札幌や北海道の文化・歴史・自然環境を深く知る講座や地域課題、社会問題について考える講座、趣味・特技をボランティア活動につなげるための講座などに重点をおき実施する。
- 実践的な学びの場として現地学習を取り入れた講座の拡充を図る。

(事業報告書より)

- まちづくり活動へのきっかけづくり・地域への関心を高めることを目的に、「スキノの歴史と文化をたどる」や「まちを面白くする場づくり」などの講座を実施した。
- 趣味や特技を生かして社会参加を促すことを目的とした「カメラで始めるボランティア活動」、多様性や共生社会への理解を促すためにユニバーサルデザインのまちづくりをテーマにした講座や外国籍の方へのやさしい日本語や英語表現を使ったコミュニケーションを学ぶ講座などを実施した。

イ 産業・ビジネス系

《事業計画書より》

- 働き方改革や多様な人材の積極的登用など、これからの働き方に対応した講座やビジネススキルアップのためのアイデア、トレンドの情報を学ぶ講座を実施する。
- 目的や内容を明確化し、短時間で気軽に学ぶスキルアップ講座を実施する。

《事業報告書より》

- デジタル社会におけるビジネス支援講座として、「デジタル時代の著作権法入門」や「すでに始まっているメタバース World」などの講座を実施した。
- 様々な関係先と協働し、新たな価値を創造する共創（コ・クリエーション）という新しい概念を学ぶ講座や、コロナ後のインバウンド対策について学ぶ講座などを実施した。
- オンライン講座としては「心をリセットするマインドフルネス入門【一部】」、「オンラインコミュニケーションの楽しみ方」を開講し、多様な学びの場の整備に向けて積極的な取り組みを行った。

ウ 文化・教養系

《事業計画書より》

- 現代的課題や社会の話題に関すること、趣味や教養など生きがいづくり・仲間づくりにつながる講座を実施する。

【ご近所先生企画講座】

第3次札幌市生涯学習推進構想の「まちの活力を高めるための学びの推進」「学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実」の実現を目指し、市民が講師（＝ご近所先生）となり、自身の知識・特技・経験を生かした講座を市内各地で展開することで、学びを手段とした新たな“縁（＝学習縁）”をつくり出す。

【ちえりあ学習ボランティア企画講座】

さっぽろ市民カレッジの企画に参画するボランティアグループ「ちえりあ学習ボランティア」の手で企画運営等を行うことで、市民の社会参加や自主的な学習活動を促進する。

【学社融合講座】

市立札幌大通高校を会場に行う講座であり、異なる世代が共に学び合う「新たな学びの場」を創出することによって、学ぶことの楽しさや喜びを分かち合い、生涯学習の機会の充実・拡大を図る。

（事業報告書より）

- 趣味や教養、生きがいづくりや仲間づくりにつながる講座として、「世界文化遺産縄文遺跡群を訪ねて（ちえりあ学習ボランティア企画講座）【一部オンライン】」や「はじめての短歌創作」などを実施した。
- このほか、「70 歳からの終の住処の選び方」など現代的な課題をテーマとした講座も実施し、市民の学習意欲の向上を図った。
- また、ご近所先生企画講座では、「心も体も喜ぶ！一年中盆踊り」（北区民センター）や「学校では習わないリアルな基礎英語」（西岡図書館）など、他施設と連携し展開した。

【実績】 さっぽろ市民カレッジ講座内訳

	センター 企画講座	学社融合 講座	ちえボラ 企画講座	ご近所先生 企画講座	講座数計	受講者数
市民活動系	26	12	-	-	38	739
産業・ビジネス系	31	5	-	-	36	423
文化・教養系	21	15	15	76	127	2,169
合計	78	32	15	76	201	3,331

（2）生涯学習関連講座

ア 大学との連携講座

大学と連携して互いの特性を生かした講座を実施した。

【実績】 札幌市立大学 「小樽の歴史的建造物をたどる」

イ 行政機関連携講座

市内の図書館と連携し、ご近所先生企画講座を実施した。地域の新たな学びの機会を創出した

【実績】 9館 11講座 受講者 965名

ウ 民間企業などとの連携事業

それぞれの企業の特徴を生かした講座を実施し、より専門的で深い知識を提供した。

【実績】 雪印メグミルク株式会社「牛のお話と牛乳パック工作体験」 ほか
受講者 春・夏期 15名、冬期 13名

エ 市民活動団体や専門機関などとの連携講座

それぞれの団体の専門性を生かした講座を実施した。現地学習を交えることで、

親しみやすい内容を提供した。

【実績】 円山動物園 「動物園の役割」 受講者 14 名 ほか

2. 学習支援者活用・育成事業

関係機関及びサークル・団体と連携し、市民活動及びまちづくりを活動を担うことのできる人材を育成する。

(1) 学習支援者・ボランティアなどの育成

ア 市民講師育成事業（ご近所先生）

ご近所先生企画講座の講師を希望する市民を対象に、講師としての資質向上とスキルアップを目的とした研修会を実施した。

【実績】 説明会 9回 参加者 98名
研修会 4回 参加者 52名
交流会 1回 参加者 18名

イ 生涯学習ボランティア育成事業

市民カレッジ講座の企画・運営に当たる「ちえりあ学習ボランティア」の活動として、企画内容や運営方法について話し合う定例会などを実施した。また、コロナ禍で延期していたボランティア団体設立 20 周年を記念した講演会を実施した。

【実績】 「ちえりあ学習ボランティア」登録者 45 名
ちえりあ学習ボランティア設立 20 周年記念講演会 1回 124 名

(2) ボランティア等活用事業

ア 学習支援者活用推進事業

さっぽろ市民カレッジ受講修了者に、学んだ成果を生かせるようセンター事業への参画を促すとともに地域での活動の支援を行う。

(ア) ちえりあビデオクルー

○ビデオ撮影ボランティア「ちえりあビデオクルー」は、生涯学習センターの事業や地域のイベント等での撮影を行っている。毎月の定例会や学習会のほか、ちえりあロビーコンサートの撮影や、札幌市内で活動している音楽団体等、外部からの撮影依頼に対応している。

○また、さっぽろ市民カレッジ「基礎から学ぶ動画撮影」、「基礎から学ぶ動画編

集」では、講座の企画や受講者のサポートを行った。

【実績】 登録者 21 名

(イ) カメラボランティア

- 写真撮影ボランティア「カメラボランティア」は、福祉施設などからの要望に応じて主に市内近郊で写真の撮影を行っている。
- ちえりあロビーコンサートの撮影や、趣味を通して社会貢献を行うカメラボランティアの活動を紹介する展示などを実施した。
- また、さっぽろ市民カレッジ「カメラで始めるボランティア活動」では、講座の企画や受講者のサポートを行った。

【実績】 登録者 12 名

静岡市

※パンフレット「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に講座案内 2023」(資料4)、静岡市ホームページより作成

1. 「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」

本市が「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」で目指すところは、シチズンシップ(※)を育む様々な学びが、市民生活を支える自発的な活動につながり、さらに地域経済を担う活躍やチャレンジにつながっていく姿です。

(※) シチズンシップとは：住民から一歩踏み出して、市民として積極的にまちづくりにかかわろうとする公共意識のことをいいます。

令和5年度から、これまでの「こ・こ・に」講座を「キャリアチャレンジ学部」と「地域チャレンジ学部」の2部制に再編しました。みなさんが、激しい社会情勢の変化に対応するために必要な能力やスキル、キャリアを向上することができるような講座を増やしていきます。

(1) キャリアチャレンジ学部

キャリアチャレンジ学部は、能力やスキル、キャリアを向上する学びから、地域経済を担う活躍やチャレンジにつなげることを目的とした人材養成講座を束ねた学部です。

(2) 地域チャレンジ学部

地域チャレンジ学部は、地域貢献や環境・福祉・教育などを学び、市民生活を支える自発的な活動につなげることを目的とした人材養成講座を束ねた学部です。

(3) 高校生チャレンジコース

まちづくりにかかわるきっかけをつくりたい高校生のための講座です。

2. 「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」修了後

(1) 修了後フォロー

ア 交流会「ここにわ」

こ・こ・に全講座の受講生や修了生が集う交流会を年度末に開催しています。一緒に学んだ仲間との再会や、新しい出会いを通して、人的ネットワークが広がり、今後の活動につながります。

イ ここにわ通信

講座終了後に事務局を通じたメールにより、市付属機関等委員の募集や、修了生の学びや活動に役立つ情報などを受け取ることができます。

ウ ここにわ相談

まちづくりの専門家に、活動へ一歩踏み出すきっかけとなるような相談が気軽にできます。

(2) 学んだ後の実践を応援する「静岡まちづくりマスター認定制度」

こ・こ・にの講座を複数修了し、こ・こ・にポイント★を5つ以上獲得した方を、静岡のまちづくりのリーダーとして認定する制度です。

《静岡まちづくりマスターとは》

次の3つのことにチャレンジし続ける人のこと

①自分ごとにする

地域や社会をよりよくしたいという意識を持ち、困りごとを自分事として考える

②実際に行動する

自身の智識や経験に加え、「こ・こ・に」で学んだことを、率先して地域や社会に還元する

③輪を広げる

自分の考えや行動をより多くの人に広げ、繋がっていく

《マスターの特典》

- 生涯学習施設や市民活動センターの使用料免除（1年間）
- まちづくりが学べる特別研修への参加（無料、年1回程度）
- 市付属機関の市民委員応募時の副申（3年間）

.....

【静岡市生涯学習推進課に電話で確認したこと】

- 平成28年度から「静岡シチズンカレッジ」と冠をつけ、庁内各課が開催している人材育成のための講座を「こ・こ・に講座」として一つに取りまとめた
- こ・こ・に講座として扱うために、内容について一定の基準を設けている
 - ・3回～5回シリーズで一定の知識やスキルを習得できる
 - ・座学だけでなく、受講者の交流が生まれるような内容である など
- こ・こ・に講座として講座内容のレベルをそろえるために、庁内各課との会議を年間数

回持つとともに、職員向けの研修も行っている

- 将来的には、キャリアチャレンジ学部としてリスクリング講座を増やし、地域チャレンジ学部と同じくらいの講座数にしていきたいと考えている。ただ、リスクリング講座となると市役所各課ではほとんど開催していないので、民間企業との協働で事業を行う予定
- 静岡まちづくりマスターは現在 30 人程度
- 静岡まちづくりマスターの特典として設けている「生涯学習施設や市民活動センターの使用料免除」についてはあまり利用がない。利用が多いのは「まちづくりが学べる特別研修への参加」である。具体的な研修の内容は、チラシ作成やファシリテーション研修など